

【四月】お題「春のもの」「通学路」「ありがとう」

月間賞

芽を出した春風と共に新緑の春の味覚自然のめぐみ

二―三 千葉 果澄

第二席

落ちてくる肩にそっとね触れてきた甘い香りの清き桜（はなびら）

三―二 佐々木 涼花

第三席

春が来た蕾からなり花が咲き桜を見上げ温もり心
響きだす輝く声と通学路笑顔と共に歩いて行くよ
雨がふりぬれる桜がつぶやいた咲きたくても咲けぬものもある

二―二 渋谷 拓真
三―一 廣瀬 亜美
三―三 櫻田 侑子

優良賞

ありがとうその一言で笑顔になる世界共通の魔法の言葉
うぐいすが春が来たぞと知らず声わが手の中には桜の花びら
真新しいランドセル背負う小さな背歩く姿はたんぽぽの花

三―二 及川 蒼太
一―二 大和田 陽
一―三 谷代 乃々

佳作

桜散り登校坂は鶺鴒色に歩く生徒の足下明るく
桜散る桜のなみだゆらゆらと川におちてはまた花咲かす
宙を舞うあの花びらは雨の如し桜の雨は脆く儂い
さくらもち葉っぱが残る悲しいな僕も食べてよおもちと一緒に
初めての通学路へと歩き出し軽い足どり校舎に向かう
通学路長い坂道進むたび期待膨らみ胸が高鳴る

三―三 佐藤 愛結
二―二 松田 真於
二―一 佐々木 陽菜
二―三 佐々木 好佳
一―三 高野 美咲
一―一 平田 纏

入選

春野菜口の中からしみわたり新鮮さから感服するか
薄紅の風が舞い散る坂道が初めて登った日をふと思う
そばにいていつも笑顔にしてくれたさよならだから何も言わない
さわやかな見上げる空は嬉しそ風と桃色共に舞い散る
ふと思う桜ふぶきし春の朝いつか散りゆく花も命も
城山の桜見に行き手が動くスマホの中には桃色の花

三―二 澁谷 真由
三―三 木村 紀来
三―三 櫻田 侑子
三―一 廣瀬 亜美
一―二 佐々木 悠斗
一―三 菊地 萌依

国語科からのアドバイス：一年生、『岩高短歌』へようこそ！二・三年生の歌は、さすがです！経験の積み重ねを感じました。特に「月間賞」の千葉さんは「視覚（新緑）・「触覚（春風に触れる感覚）」「味覚」等、様々な感覚を通して豊かに春を表現していて、すばらしいです。皆さんも日常のちよっとしたことにも感覚を研ぎ澄まして言葉にしてみまじょう。きつと短歌じゅくりにもつながりますよ（石）